

研究課題	SDGsの視点を踏まえた課題解決型探究学習による社会に貢献できる人材の育成
副題	～ICTを活用した遠隔型高大連携～
キーワード	SDGs ICT活用 遠隔型高大連携 課題解決 地域貢献
学校/団体名	公立群馬県立大間々高等学校
所在地	〒376-0102 群馬県みどり市大間々町桐原 193-1
ホームページ	http://www.oma-hs.gsn.ed.jp/

1. 研究の背景

本校は、明治33年、初代校長井上浦造氏により、「地域の柱となり、社会に貢献する人材の育成」を目指して創設された。以降122年間、この建学の精神は受け継がれ、現在も「社会に貢献できる人材の育成」を目標とし、みどり市唯一の高校として地域の期待を背負い、日々の教育活動を行っている。

令和2年度からは、「総合的な探究の時間」において、全生徒がSDGsの視点を踏まえた課題解決型探究学習に取り組み、地域と共に様々な活動を展開してきた。大間々町のSDGsを見つけるSDGsフォトコンテスト、わたらせ渓谷鐵道支援のための「わたつの旅」やコラボPR動画の制作と発信、ジェンダー平等を訴えるポスター制作と地域住民への発信等、その活動は、県内でも広く知られるようになった。これらの活動をリードする生徒の組織「SDGs井上浦造みらい塾」も発足し、生徒主体の活動となっている。令和3年度においては、今までの活動をより発展させることに加えて、昨年度コロナで中止になった文化祭を新しい形で実施したいと考えた。SDGsみらい探究の学びを生かし、校内に止まらない地域を旅する文化祭である。

また、SDGsに関する授業や、動画制作に関しては、立命館大学と連携しており、ICTを活用し、オンラインで指導していただいている。遠隔ではあるが、生徒は、学生と日常的にやりとりを行っており、探究活動のみならず、進路に関する相談や大学の情報収集、小論文指導等、良い影響を受けている。

ICT環境については、令和2年度中に県教育委員会より生徒一人に一台のPCが貸与され、校内の各教室等すべての場所のWi-Fi環境も整備された。

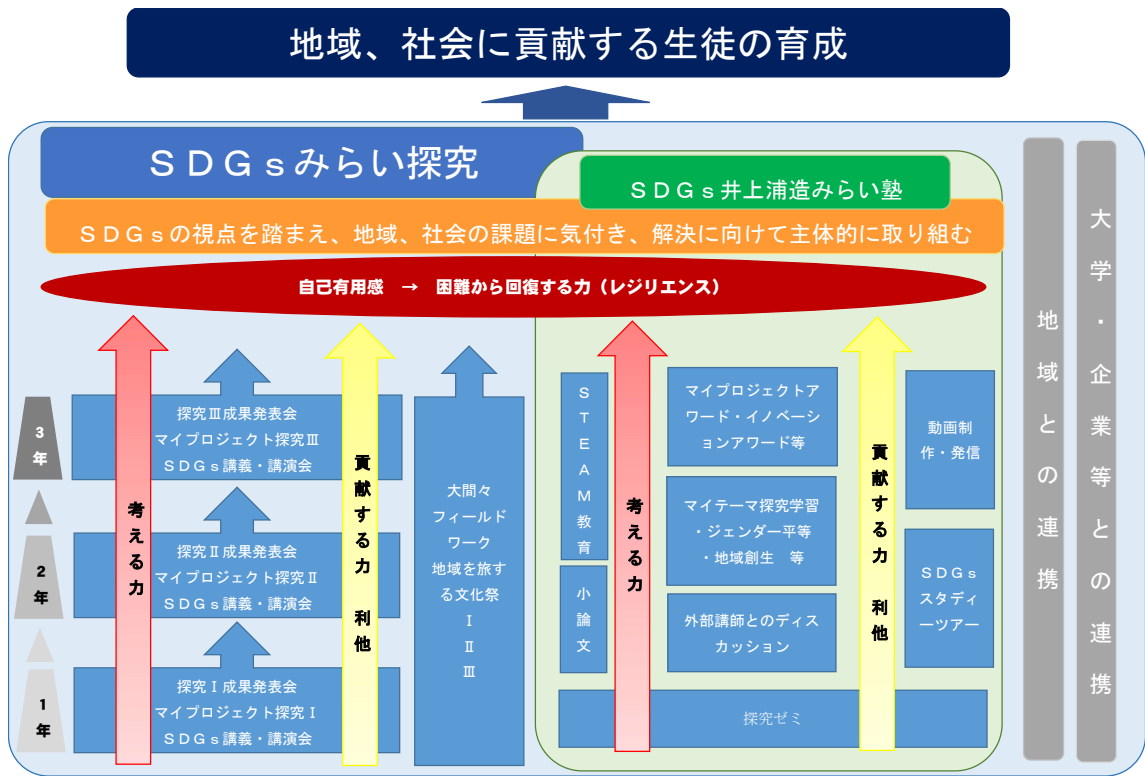
2. 研究の目的

- ①地域、社会の課題に気付き、解決に向けて主体的に取り組み、**貢献できる生徒**の育成
- ②積極的な**発信**により、**地域、社会へ問題提起**を行い、**校内の学習に止まらない課題解決学習**の実践
- ③ICTを活用した**遠隔型の高大連携**の充実

3. 研究の経過

研究の目標を達成するため、次の(1)～(4)のとおり体制を整え、計画を立てた。

- (1) 研究の構想



(2) 研究体制図

わたらせ渓谷鐵道	大間々高校			立命館大学	
みどり市観光課				株式会社COMARS 立命館大学大学生	
地域協力者	教頭	校長	事務長	外部講師	
足利屋代表取締役・三方良しの会長 松崎靖氏	教育研究部 SDGs未来探究係			東京大学名誉教授 上野千鶴子氏	
SDGs芸人・みどり市観光大使 富所哲平氏	1学年団	2学年団	3学年団	前橋国際大学学長 大森昭生氏	
近藤酒造株式会社 代表取締役 近藤雄一郎氏	SDGs井上浦造未来塾			群馬県立女子大学学長 小林良江氏	
日本一醤油 岡直三郎商店 和菓子 長寿軒				足利短期大学 茂木克浩氏	
焼きまんじゅう 美濃屋				特別アドバイザー	
手作りコロッケ いたくらや	1学年生徒	2学年生徒	3学年生徒	セクシュアルマイノリティ支援 団体ハレルワ	
ところん スナガ商店 新宇商店 小林米穀店 他				代表 間々田久渚氏	

(3) 取り組み内容

- ①「SDGs 未来探究（総合的な探究時間）」におけるすべての生徒対象の課題解決学習
- ②「SDGs 井上浦造未来塾」におけるリーダー養成
- ③「わたらせ渓谷鐵道」を利用した地域探索とSDGsフォトコンテスト（すべての生徒）
- ④SDGs 未来都市研修「SDGs スタディーツアーin みなかみ」の実施（未来塾）
- ⑤SDGs 未来都市研修「SDGs スタディーツアーin 滋賀」の実施（未来塾）
- ⑥大間々ツアーリズム（すべての生徒）

- ⑦成果発表（すべての生徒）
- ⑧社会課題について主体的に考えるフォーラムの開催（すべての生徒）
- ⑨HP、動画等による地域社会への発信
- ⑩ICTを活用した遠隔での高大連携と遠隔の高校生との協働学習

上記の①～⑩の計画のうち、④、⑤のSDGsスタディーツアーがコロナウイルス感染症拡大の影響により方面が変更になったが、それ以外の計画についてはすべて実施することができた。

総合的な探究の時間や公開授業では、ICTを活用し、全校生徒を牽引する有志グループ「SDGs井上浦造みらい塾（通称みらい塾）」の生徒（1～3年28名）が成果発表や討論を行い、オンラインで各教室、県内の他の高校へライブ配信を行った。



〈公開授業において配信するみらい塾の生徒〉



〈教室で視聴する生徒〉

立命館大学との連携では、年間を通して大学生にSDGsに関する授業や、みらい塾の生徒の指導をしていただいた。特にジェンダーに関する課題解決を訴えるための動画制作においては、脚本と出演を生徒が担当し、演技指導と撮影については映像学部の学生が担当するコラボレーションで作品を作り上げた。完成した動画を配信したことで、本校の取組が地域住民のみならず県内外の高校生や一般の方々に広く問題提起することができた。リーダーの養成を目的として組織された「みらい塾」の活動により、学校全体の様々な取組が充実し、発展したと言える。



〈立命館大学生との動画制作〉



〈校長室でのみらい塾ゼミ〉

〈年間計画〉

SDGsみらい探究(総合的な探究の時間)				みらい塾(リーダー)
	1学年	2学年	3学年	1~3年の有志
4月	1 SDGsとは (みどり市観光大使 富所哲平氏)	1 マイプロジェクトの進め方 (立命館 オンライン)		<ul style="list-style-type: none"> ・動画制作 「思い込みからの自由へ」 脚本・出演 みらい塾 撮影・編集 立命館 大学学生 ・探究ゼミ 「ジェンダー平等を 考える」
	2 LGBTQ	2 教育が世界を 変える		
	3 子供の貧困	3 文字を読める ということ		
	4 フェアトレード	4 海を守るために 出来ること		
5月	5 上野千鶴子氏講演会 & ディスカッション事前学習			<ul style="list-style-type: none"> ・上野千鶴子氏講演 会 & ディスカッション 準備 ・振り返り
	6 上野千鶴子氏講演会 & ディスカッション(オンライン公開講座)			
	7 上野千鶴子氏講演会 & ディスカッション事後学習			
6月	8 大間々町の三方良しと近江商人(立命館 オンライン)			<ul style="list-style-type: none"> ・読書会 ・小論文講座①~⑤ ・探究ゼミ 「地域創生」
	9 SDGsフォトレク チャー(立命館)	9 マイプロジェクト探究 I ①計画		
	10 SDGsフォト コンテスト	10 マイプロジェクト探究 I ②		
7, 8	マイプロジェクト探究 I 発表準備			
9月	11 レジリエンスな まちづくり	11 マイプロジェクト探究 I クラス発表・代表選考③		<ul style="list-style-type: none"> ・群馬イノベーション アワード (わてツーリズム、わ たらせ渓谷鐵道を活 用したビジネスプラン の提案)
	12 気候変動につい て考えよう	12 マイプロジェクト探究 I クラス発表・代表選考④		
10月	13.14 マイプロジェクト探究 I 発表会⑤			<ul style="list-style-type: none"> ・探究ゼミ 「ジェンダー・地域創 生」
	15 大間々高校フィールドワーク2021事前学習① ・地域を巡るデジタルスタンプラリーについて			
	16 大間々高校フィールドワーク2021事前学習② ・班別行動計画			
	17 大間々高校フィールドワーク2021事前学習③			
11月	18.19.20.21.22 大間々高校フィールドワーク2021			<ul style="list-style-type: none"> ・読書会 ・小論文講座 ・マイプロジェクトア ワード
	22 大間々高校フィールドワーク振り返り			
	23.24 SDGs講演会 「世界の紛争を防ぐには」瀬谷ルミ子氏			
12 ~ 3月	25.26 質の高い教育を 小論文講座(立命館)			<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsスタディツ アー実践女子大学、 朝日新聞社 ・探究ゼミ 「ジェンダーと美術」
	27 近江八幡ツーリズム(立命館オンライン)	27 3年間の振り返り		
	28 公開授業「探究から見つけた私の進路」	28 3年間の振り返り		
	29.30 探究まとめ・成 果発表	29.30 マイプロジェクト 探究 I まとめ⑥、⑦		

4 代表的な実践

① 上野千鶴子氏講演会&ディスカッション（5月31日）

令和3年度の主要行事の一つとして、東京大学名誉教授の上野千鶴子氏と講演会及びディスカッションが行われた。事前学習として、全生徒が上野氏の著書「女の子はどう生きるか 教えて、上野先生！」を読み、事前学習を行った。また、みらい塾の生徒は、その事前学習に加えて当日の授業案を検討し、上野氏との打ち合わせを2回行って、授業の構想を立てた。当日は、みらい塾の生徒のうちの代表6名がそれぞれのPCを持って1つの教室に集まり、zoomにより上野氏と繋がった。司会も含め討論者は生徒と上野氏のみで行った。この90分間の議論の様子を全校生徒と視聴希望のあった県内の他の高校、一般の方々へ向けてライブ配信した。

【事前】（全校生徒）

- ① 上野氏の著書「女の子はどう生きるか 教えて、上野先生！」を読む
- ② 本を読んで考えたことや課題を挙げ、グループディスカッションを行う
- ③ 上野氏への質問をまとめる

（みらい塾の生徒）

- ① 上野氏の著書「女の子はどう生きるか 教えて、上野先生！」を読む
- ② ゼミ
- ③ 第1回上野氏との打ち合わせ
- ④ 当日の授業案検討
- ⑤ 第2回上野氏との打ち合わせ
- ⑥ 当日の授業案再検討

【当日】（全校生徒）

- ④ 各教室で、上野氏とみらい塾の生徒のディスカッションをオンラインで聴く
- ⑤ ディスカッションの内容を基にグループで自分たちの考えを話し合う

（みらい塾の生徒）

- ⑧ 上野氏とディスカッション

県内の高校

地域住民
県内外一般の方々

② 大間々高校フィールドワーク2021～学びを止めない新しいカタチの文化祭～（11月）

コロナ禍であっても「生徒の学びを止めない」と、「大間々町の活性化」を目的として、新しい形の文化祭を実施した。学校に地域の人々を呼ぶのではなく、生徒たちが街へ出て行く地域全体をフィールドとした文化祭である。また、地域の方々も参加可能とした。

i デジタルスタンプラリー

デジタルスタンプラリーをしながらまちあるきを実施。スタンプスポットは、大間々博物館、まちなか交流館、大間々駅、水沼駅、岡三郎商店、大間々庁舎、神明宮、常夜灯の8カ所。

ii 商店街味わいフェスタ

商店街の老舗を周り、焼きまんじゅう、和菓子等を味わい、名産の醤油をもらい、大間々の名産品を知る。

iii わ鐵マナブ&SDGsフォトコンテスト

全国的に人気のある「わたらせ渓谷鐵道」に乗って地域を知る旅を体験。SDGsを見つけるフォトコンテストを実施。

iv シンポジウム～みどり市・大間々の未来を考える～

パネリストとして大間々町の立役者を招き、「みらい塾」の生徒と大間々の未来を語り尽くす。オンライン配信で、各教室と地域の人々に配信。

v 伝統と文化を知るセミナー

体育館では地域の伝統と文化を学ぶセミナーを実施。

vi マイプロジェクト成果発表会

全校生徒が取り組んだマイプロジェクト。
選ばれた6人が体育館で発表。



〈老舗の味めぐり〉



〈わ鐵に乗って地域を知る旅〉

5. 研究の成果

令和4年3月に実施した生徒対象アンケートの結果は以下の通りである。

Q1 「SDGsみらい探究」の学習活動により、1年前と比べて**地域社会の課題に関心を持つ**ことができましたか？（回答数1、2学年201名）

とてもそう思う 34.2% そう思う 60.2% そう思わない 5.6%

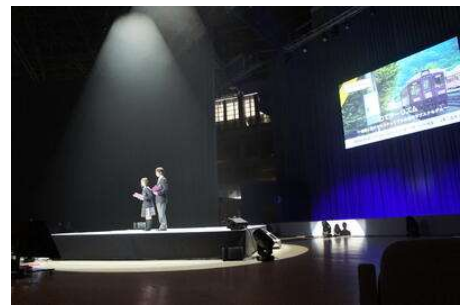
Q2 「SDGsみらい探究」の学習活動通して、1年前と比べて**地域のために役立ちたい、何かしたい**と思うようになりましたか？

とてもそう思う 26.8% そう思う 66.6% そう思わない 6.6%

Q3 **大間々高校は地域に貢献している**と思いますか？

思う 89.9% 思わない 10.1%

また、本校の取組は、地域住民や県内の中学校・高等学校等に広く知られ、県外からも問い合わせがあった。特に、フィールドワーク2021は地域住民と本校の結びつきを強めることに繋がった。群馬イノベーションアワードでは、わたらせ渓谷鐵道を利用した旅行サブスクモデルを考案し、高校生の部において500組を越す応募の中からファイナリスト6組に選出された。



〈GIA ファイナルステージ〉

6. 今後の課題・展望

今後は、評価について研究を進めたい。整備されたICT環境を活かし、さらにオンライン授業や講演会の配信、遠隔型の高大連携を充実させ、フィールドワークを来年度以降も継続したい。

7. おわりに

貴重な機会をいただいたパナソニック教育財団に心より感謝申し上げたい。

8. 参考文献

「学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」（文部科学省 平成30年7月）